

第4回 魚津市総合戦略推進委員会 会議録（HP）

- 1 開会
- 2 議題

（会長）

観光案内所に立ち寄ると、ありそドームが目にとまったので、歩いて向かった。魚津はとても環境が良く、地方都市として、十分な人口やインフラ、街が整備されており、特別何かあるわけではないが、暮らしのために必要なものはすべて揃っており、良い街であることは間違いない。現在まではそれなりに生活が完結してきたが、今後は全国的な少子高齢化が避けられず、このままでは立ち行かなくなるという部分で、いつまでも同じではだめで、新しいことを進めていく必要があると思う。毎回、魚津の良さを感じるが、それが何かという部分や、今後も快適な街で暮らすためには何が課題でどのようにしていけばうまくいくかを意見交換しながら議論を深めていきたい。では、議題（1）パブリックコメントの結果等に関して、事務局より説明をお願いします。

（事務局より説明）

（会長）

総合戦略の内容については、市議会委員さんは今回初めて見たのか。

（事務局）

委員の皆さんと同じようなタイミングから見られている。

（会長）

ここでの質問や疑問点はあまりないと思うが、パブリックコメントに寄せられた意見として、魚津の「水」循環についての話があった。今後もっと個別事業として進めていくと思うが、円筒分水槽をはじめ、水循環についての市の施策は見た限りでも多くある。それをあえてまだ市民からの意見が挙がってくるということは、ひとつ市政の「見える化」が大事かもしれない、ということが考えられる。他に質問をどうぞ。

（質問なし）

（会長）

では議題（2）まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて説明をお願いします。

（事務局より説明）

（会長）

P10女性人口の部分の内容変更と、P35, 36のシミュレーション内容の表記グラフが追加されたという修正内容について説明があったが、P36の人口推計ワークシートに2種類の推計パターンがあるが、内訳等中身について紹介してほしい。独自推計はどのように推計されているのか。例えば出生率の中身について、全国平均よりもこの目標を建てると、2060年に3万人が維持できる、というように考えてよいのか。

(事務局)

2種類の人口推計パターンについては、社人研が公表した、このまま人口減少に対して何も手をうたない場合の人口推計であり、市独自推計は総合戦略等の施策を実施し、出生率や人口移動等の数値が改善した場合での推計である。

(会長)

P25, 26あたりにも、人口推計のシミュレーションがあるが、我々が議論してきた施策を実施すれば、市独自の推計のようになる、という事は共有できていると思う。

(事務局)

市独自の推計をどのような前提にしているかについてはP35の枠内に表記したとおりである。

(会長)

市の見解である人口ビジョンの結論等について、ご意見をどうぞ。

(事務局)

前回会議でP35グラフでも示したが、本市では、仮に出生率が国の人口置換水準である2.07に達し、人口の流入と流出数が均衡したとしても、2060年でも人口減少に歯止めがかからないことがわかっている。仮に、出生率が2.2程度まで上昇した場合は、2160年後あたりには人口が横ばいになるであろうという人口推計シミュレーション結果もでていいる。

(会長)

様々にシミュレーションしているようで。全体内容については意見あるか。

(A委員)

若い世代の転出が2020年に均衡する、という目標設定が高すぎるのではないか。今からたった5年後の話である。

(事務局)

我々も簡単にクリアできる数値ではないことは承知の上である。しかし、人口減少を抑えるために、達成を目指すべき目標であると考えている。

(会長)

転入や転出についてはP13に該当するグラフがある。近年の数値推移をみると、その差が均衡しつつある。移動人口自体が全体として少なくなっている傾向にあるので、まったく不可能ではないと思う。しかし、高い目標であるということは間違いない。一時的に2006年は転入超過のタイミングがあるが、これは何かあったのか。

(事務局)

企業誘致等が効いて、一時的に転入数が増えることがあるが明確にはわからない。

(会長)

改めて考察すると、転入と転出が均衡する、という目標はまったく不可能という数値ではない。

(事務局)

不可能ではないが、現状は進学する際にはどうしても市外へ転出する人数が多くなるのは避けられない。問題は、その若い世代がはやめに就職等で魚津に帰ってくるかどうかである。そのための施策として、魚津の魅力や、やりたいと思うしごと創出に取り組んでいく。

(A委員)

2020年で人口流出超過をゼロにする、という目標の先に、流入超過を目指すという構想もあるのか。

(事務局)

流出を防ぐことと流入を増やすことは同時に進める訳で、当然、流入が超過になることを見据えて施策を進める訳であるが、まずもっての目標は流出をゼロにするという目標に向かって進んでいく。

(会長)

我々委員は、あまりに悲観的にみるのも良くない。少なくとも希望を持って取り組んでいく必要がある。他に意見あるか。

(意見なし)

(会長)

では、次の議題（3）総合戦略について、事務局より説明

(事務局より説明)

(会長)

前回からの変更点について、説明を受けたが質問をどうぞ。基本目標3の文言変更については意見あるか。

(B委員)

文言そのものは良いと思う。大事なの中身の施策内容である。

(会長)

各論の前に大きな部分や文言については、これ以上あるか。基本目標2について、議員から「具体的ではない」という指摘もあったようだが、私はそう思わない。施策の3つも明確でわかりやすい内容となっていると思う。委員の皆さんはどうか。

(C委員)

細かい話になるが、基本目標2の数値目標である、年間観光客入込数は目標人数設定が高すぎるのではないかと思う。今よりも5年後は50万人増なので、一年あたり10万人ずつ観光客が増えていかないと達成できない数値である。

(事務局)

観光を担当する部局が算出した数値である。基本目標2で「新しいひとのながれをつくる」という施策を実施して、この数値を積み上げていけるという目標数値である。

(会長)

この目標人数の因果関係みたいなものを示すことができるか。

(事務局)

観光客人数が増えていけば、最も期待される「宿泊」等での域外収入が増え、魚津の活性化に一役買う、ということを見据えている。様々な形、もちろんレジャーのみならず、ビジネスやその他色々な訪れる人数を合計すると、50万人増を達成したい、ということである。

(C委員)

観光振興をしっかりとみているため、この見通し、目標が大変難しいものであるとわかるから、あえて申し上げている。

(会長)

委員から、この数値を達成するために、何かアイデアあるか。

(C委員)

海外からの観光客が増えても定住人口が増えないと難しい。大がかりなイベントが増えない限り、かなり難しいのではないか。

(事務局)

達成は確かに高いハードルではある。先日のイベント「まるまる魚津」は5万人の集客であった。しかし、これを頑張って目標値として設定し、達成したい。今あるイベントももちろん強化し、集客をしていく。

(C委員)

中々難しい。今と比べ、来年は10万人増、再来年は今と比べ20万人増である。積み上げていくという事ではなく、毎年増やさなければ、という事である。

(D委員)

50万人増は非常に難しいと思う。一度の集客でも、様々に努力をする必要があり、本当に苦労しているのでわかる。話は戻るが、数値目標を立てるのが大事であるそもその理由は、魚津に訪れてもらう人を増やし、魅力を感じてもらったうえで、将来的に暮らす、移住する候補地として見てほしい、ということである。数値を議論するのは確かに重要であるが、数値が妥当かどうかではなく、どうしたら魅力を感じてもらえるかを考えたほうが良い。例えば現在開催している集客イベントについて、どうしたら訪れてくれる人が増えるかを関係者間の連携や分析をして、観光客数を積み上げていくことが大切なのではないか。

(会長)

6万人のイベントを年に3回やっても18万人と考えると、かなり難しいと思うが他の委員はどう考えるか。

(E委員)

人口増加につながると良いとは思いますが、人数の目標値だけ挙げて議論しても仕方がないと思う。最終的に、魚津の良さを実感してもらい、定住に結び付けていくほうが大事である。しかしながら、目標値の人数は達成が難しいと思う。

(事務局)

総合計画での目標値である部分もある。しかし、皆さんからの意見をまとめると、この目標値は厳しい数値なのかなと思う。

(会長)

この増加数をどのような論拠を持って説明するのか、という部分が難しいところだ。

(C委員)

この目標数値を観光に関係する団体としては許してしまうのもなかなか難しい。

(事務局)

もう少し現実的な数値を算出しなおした内容での提案を考えてみたいがいかがか。

(会長)

整合性をもった数値で修正してほしい。では他に気になる部分があれば意見をどうぞ。

(F委員)

具体的な事業の中身については、これから検討していくのか。

(事務局)

今まさに検討しているところである。しかし、国の交付金の動きも当初と比べ規模が小さなものになりそうであり、市町村からの持ち出しもでてくるため、慎重に事業実施を検討し、優先度が高いものから実施していく予定である。

(G委員)

県の調査での話だが、降雪地帯での林業従事者が、どうしても休業する期間ができてしまうため、通年で働けるのであれば、従事したいと思っている人が多くいると聞いた。それができるような施策が市から提案があれば期待したいと思う。

(E委員)

我々も様々な市町村で地方創生に関する策定会議に出席している。県内でも魚津市の皆さんはとても熱心に取り組まれていると思うので、ぜひ具体的な事業を実施して行ってほしい。そうすれば街の活性化につながると思う。

(事務局)

一次産業についての話だが、本市にはすべて従業者がいる中で、一次産業の問題として挙げられる点は「所得の低さ」である。何とか若い世代に一次産業に就いてもらいたいという願望の一方で、それを実現させるためには所得を安定させることが大事であるので、そのあたりは金融機関さんとの連携により、何か効果的な施策ができればよいと考えている。

(H委員)

資料の5だが、今回の総合戦略、一番の推進主体は「市民」であると思うが、せっかく立派な文章を作っても、絵に描いた餅となってしまう、なかなか市民の一人ひとりが目を通し、施策に向き合っていくという状況をつくるのは大変である。市民への情報周知のために、何かしらの工夫が必要であると思う。これまでの様々な施策についても関心のある市民は一部の人である。今回の施策は、大げさにいうと、これを市民一丸となって取り組まなければ、存続さえもあやうくなる、という危機感を持って臨まなければならないと思っているので、情報周知をしっかりとやってほしい。

(会長)

最後に私から申し上げようとしていたことを指摘された。まさにおっしゃったとおりである。行政や市民、あらゆる主体が一体となって取り組んでいくという前提だが、市民に委託を受けている役所の皆さんは先頭を切ってしっかりと取り組んでほしい。

これから10年、20年先の明るい未来を前向きにつくっていく施策づくりの場に参加させていただいて非常に感謝している。では、今後のスケジュールについて事務局より説明をお願いします。

3. 今後のスケジュールについて

(事務局より説明)

4. 閉会